

平成 28 年度第 4 回小牧市総合教育会議 議事録

日 時	平成 29 年 1 月 17 日 (火) 16 時 30 分～17 時 15 分
場 所	小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	<p>【委員】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長 安藤 和憲 小牧市教育委員会 教育長 山田 周司 小牧市教育委員会 委員 (教育長職務代理者) 斎藤 由美 小牧市教育委員会 委員 伊藤 敬一 小牧市教育委員会 委員 伊藤 和子 小牧市教育委員会 委員</p> <p>【説明員】</p> <p>伊木 利彦 市長公室長 大野 成尚 教育部長 小塚 智也 こども未来部長 山本 哲修 市長公室次長 伊藤 一裕 教育次長 (学校教育担当) 鍛冶屋 勉 教育次長 (社会教育担当) 舟橋 逸喜 こども未来次長 松永 有紀彦 教育委員会事務局 教育総務課長 野田 弘 教育委員会事務局 教育総務課長補佐</p> <p>【事務局】</p> <p>宇野 嘉高 市長公室 秘書政策課長 舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 丹羽 勇人 市長公室 秘書政策課 市政戦略係</p>
傍 聴 者	7 名
配 付 資 料	<p>資料 1 構成員名簿／座席表</p> <p>資料 2 小牧市教育大綱案について</p>

内容

<p>1. 市長あいさつ</p> <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定刻となりましたので、ただいまより平成 28 年度第 4 回小牧市総合教育会議を開催いたします。 私は本日の進行を務めさせていただきます、秘書政策課長の宇野と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、まず初めに、山下市長からごあいさつをお願いいたします。 <p>山下市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日、平成 28 年度、4 回目の総合教育会議を開催させていただく訳ですが、教育委員の皆様におかれましては大変お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。 前回、小牧市教育大綱案についてご議論をいただきまして、概ね委員の皆様のご了解をいただけたと思っております。 しかしながら私も会議の中で発言をさせていただきましたように、基本目標の前後との繋が

りや字句の精査というところで、もう少し、確認・精査が必要ではないかということでした。

- ・ 会議の後、教育委員会事務局も含めて検討させていただきまして、修正を加えさせていただきましたので、その点につきまして、改めて総合教育会議の場でご確認をいただこうということで、本日、会議を開催させていただく運びとなりました。
- ・ 後ほど、修正部分については詳細な説明がありますが、委員の皆さまにおかれましては、忌憚のない活発な議論をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 教育長あいさつ

事務局)

- ・ 続きまして、教育委員会を代表して安藤教育長よりごあいさつをお願いいたします。

安藤教育長)

- ・ 本年度、第4回目の小牧市総合教育会議の開会にあたり、私からも一言ごあいさつを申し上げたいと思います
- ・ ただいま、山下市長からのごあいさつにもありましたとおり、第3回総合教育会議におきまして小牧市教育大綱の基本理念と目指す人間像につきましては共通理解が十分に図られたものと理解をしております。
- ・ 本日は教育大綱の中でも基本目標部分について、詰めの協議が中心になるのではないかと理解しています。
- ・ いずれにいたしましても、小牧市教育大綱との整合性を図りながら教育委員会で審議を進めております小牧市教育振興基本計画につきましては、今後10年先を見越した小牧市の教育の指針として位置づけられるものでございます。
- ・ そのためにも本日の総合教育会議が納得のいく協議・調整の場になりますことをご期待申し上げます。
- ・ よろしく申し上げます。

事務局)

- ・ ありがとうございます。
- ・ それでは以降の司会につきまして、当会議を主宰いたします山下市長をお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 協議調整事項

山下市長)

- ・ それでは、早速ですが、次第の3「協議・調整事項」に入っております。
- ・ 小牧市教育大綱案について、説明を求めます。

市長公室長)

- ・ 説明に入ります前に、11月に開催いたしました第3回総合教育会議におきまして、教育大綱案のパブリックコメントを1月4日から実施予定であると説明を申し上げましたが、今回の大綱案の修正に伴い実施時期を変更いたしました。
- ・ 詳細は後ほどご説明いたします。
- ・ 委員の皆様には、急なスケジュール変更となってしまう大変恐縮ですが、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

- それでは「小牧市教育大綱案について」の説明に移らせていただきます。
- 前回会議でもお示した教育大綱案につきまして、委員の皆様からは概ねご理解をいただいたものと思っております。
- 従いまして、資料2の1～9ページにつきましては、基本的に内容の変更はございません。
- しかしながら「基本理念」「目指す人間像」と「基本目標」の関係性や繋がりにおいては、一部、不明瞭な部分もございました。
- この「基本目標」は教育大綱の理念を実現するための手段である「教育振興基本計画」に掲げられる施策や取り組みに対する目標に当たるものです。
- そのため、基本目標には8つの分野ごとに大きな目標を掲げ、その下のエンピツマーク部分では「その分野において、主にどのようなことに取り組んでいくのか」ということをある程度、読み取ることができるように文面を改めております。
- そこで主な変更点を順番にご説明させていただきます。
- 10ページ、基本目標1のエンピツの1つ目をご覧ください。
- 基本理念の前文にもありますように「社会への対応」や「主体性をもって学び、考える」ことが求められています。
- そこで本市の特徴的な取り組みの具体例として、平成28年5月に開催いたしました「教育に関する市長と教諭との意見交換会」でも挙げられておりました「学び合う学び」を追加しております。
- また、エンピツの2つ目では「理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します」と改めております。
- これも8ページの前文にありますとおり、先端産業や機械工業に関する企業を数多く有する中部圏有数の産業都市であるという本市の地域特性や、9ページの「目指す人間像」の2つ目にあります「国や国際社会の発展への貢献」という部分、教諭との意見交換会で教育の課題として挙げられておりました「配慮が必要な児童生徒への対応」や「外国人児童生徒への指導」といったご意見などを踏まえた変更となっております。
- 基本目標2のエンピツの1つ目では前回「互いに思いやれるやさしい心を養う」ことを趣旨とする記載をしておりましたが、9ページ「目指す人間像」の1つ目にあります「いのちを大切にし、自らを認め、自らを育ててくれた家族や隣人、郷土に感謝し～」という部分との繋がりを踏まえて、「国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育む道徳教育を推進します」と改めております。
- 次に、エンピツの2つ目では前回「自他のからだやいのちを大切にする態度を育む」ことを趣旨とする記載をしておりましたが、9ページ「目指す人間像」の3つ目「生きる力」のうち、主に「健康・体力の調和」という観点を踏まえ「体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます」と改めております。
- 基本目標3については前回『未来につなげる、充実した教育環境づくり』としておりましたが、「通学路の交通安全対策」や「防犯対策」といった安全な環境づくりを含んでいることを読み取れるよう、『未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり』と改めております。
- なお、エンピツの1つ目では学習機会の提供や経済的な支援など「学びを支える環境づくり」という観点を踏まえ「放課後などの学習支援や経済的な支援を充実する」との一文を追加しております。
- 基本目標4のエンピツの1つ目では前回「家庭教育・地域教育の大切さを伝え～」としてお

りましたが、「市民自らが家庭教育や地域教育を大切にする」という観点から「家庭教育・地域教育を大切にし～」と、より直接的な表現に改めております。

- ・ 基本目標5は特に修正はございません。
- ・ 基本目標6では『すべての市民が参加できるスポーツ活動の展開』としておりましたが、国のスポーツ基本計画の記述を参考に『誰もが参加できるスポーツ活動の展開』と改めております。
- ・ あわせて、エンピツの2つ目では前回「すべての市民が生涯スポーツに取り組み、スポーツを楽しめる機会・環境の整備を進めます」としておりましたが、この基本目標の修正を踏まえ「生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります」と改めております。
- ・ 基本目標7では『市民とともにつくる文化・芸術の振興』としておりましたが、市民が主体となって文化・芸術を振興していくという観点から『市民がとともにつくる文化・芸術の振興』と改めております。
- ・ なお、基本目標7と8のエンピツ部分については、前回からその内容に変更はありませんが、一部、字句の精査を行っております。
- ・ 説明は以上です。

山下市長)

- ・ ただいま説明のありました「小牧市教育大綱案について」のご意見や、ご質問などがございましたら、ご発言をいただきたいと思っております。
- ・ 基本目標は現在、大綱と並行して教育委員会で検討をいただきながら策定しております教育振興基本計画と、教育大綱の基本理念および目指す人間像を繋ぐ部分ですので、その繋がりをよりスムーズにするという趣旨で協議を続け、資料のような整理をさせていただいております。
- ・ いかがでしょうか。

斎藤委員)

- ・ 色々な点で精査をしていただいてより良いものになったと思っております。
- ・ 基本目標の修正につきましては基本目標3の「安全」というワードの追加はとても大切なことだと思いますし、基本目標6の「誰もが～」という言い回しの方が理解しやすいと感じました。
- ・ また、市民の主体性を大切にするという趣旨だと思いますが、随所にそのような修正が見られます。
- ・ ただ基本目標7の「市民が～」という修正は、これも市民の主体性を尊重するという趣旨での修正とは思いますが、例えばエンピツ部分の1つ目「～市民の創作活動を支援します」というのは行政が支援する、という意味にも聞こえます。
- ・ このあたり補足の説明などをいただければと思います。

伊木公室長)

- ・ 仰るとおり「市民とともに～」という記載から市民の主体性を尊重するということで「市民がともに～」という記載に改めておりました。
- ・ 今のご指摘もごもっともと思いますが、「市民が」としたのは「文化・芸術に一切、行政が手を出さない」という意味ではなく、市民が主体となって文化・芸術を振興していただき、そこに対して行政が必要な支援を行っていく、という趣旨であります。
- ・ 市民と行政の協力という部分を否定するものではなく、あくまで主体は市民であるというこ

とを表す意図でこのような修正を行っております。

斎藤委員)

- ・ よくわかりました、ありがとうございました。
- ・ 本当にそのようになれば素晴らしいと思います。

山下市長)

- ・ 斎藤委員のお話もよくわかって、確かに語呂が流れないということは感じます。
- ・ 実はこの部分について相当議論を行っておりまして、当初「市民とともに～」となっていました。ではこの文の主語、意味するところは「行政が」市民とともに作る文化なのか、というような意見がありました。
- ・ この教育大綱自体、いわゆる行政目標というよりは、前文で「私たちのまち小牧市は～」と始まっているように市民が小牧の教育のあり方を謳いあげていくような部分もありまして、市民と教育現場、そして行政が一緒になって教育を進めていこう、ということで「市民」が主語でも読める計画であるべきではないかという趣旨で変更をしておりました。

山田委員)

- ・ でも仮にこうしても「～文化・芸術の振興」という締めですと、結局、振興役は誰なのだ、という話になるのではありませんか。
- ・ 基本目標6のように「～の展開」とすれば全く違和感はありませんが、振興という表現ですと旗振り役が必要になると思いますし、それはやはり行政ではないのでしょうか。
- ・ どうかそうでないと下のエンピツ部分の記載「～機会の充実」や「～活動の支援」、「～体制の整備」ということに繋がらないと思います。

市長)

- ・ よくわかります、「振興」という表現については再考の余地があると思います。
- ・ ただもう少し補足させていただきますと、このエンピツ部分につきましても行政だけが主語になるとは思っておりません。
- ・ 文化芸術に関わる団体も含めて、みんなで作っていこうという想いであり、この4月から「小牧市市民文化財団」ということで設立をするわけですが、このネーミングにつきましても色々議論がありまして、当初「小牧市文化振興財団」ということで仮称しておりましたが、今と同じ議論をいたしまして「市民による市民のための文化」を盛り上げていく団体ということなので、「振興」という表現を使うとどうしても市民と行政の二元論にたって考えられてしまう、山田委員の言われるようなイメージを持たれてもいけない、ということで「振興」という表現を外した経緯があります。
- ・ なので、仮にここに違和感があるとすると「振興」という表現をより適切な文言に改めるといふことであればあり得るのかな、と思います。

斎藤委員)

- ・ 素朴な質問ですが、「市民がともに～」の「ともに」という表現は市民同士の協力を指しているのか、市民と行政の協力を指しているのか、そのあたりはどのようにお考えですか。

市長)

- ・ これはどちらも含まれています。
- ・ 市民も行政も、みんなで手を取り合って、という意味での「ともに」です。

山田委員)

- ・ 文章の区切りの問題かもしれませんが「市民がともに」とすると「市民がともにつくる文化・

芸術」を行政が振興するというように聞こえます。

- ・ 「市民とともに」であれば「文化・芸術の振興」を一緒に作り出していく、というように読めると思います。

伊藤(和)委員)

- ・ 「市民が～」という主語が必要というお話でしたが、例えば逆説的に「文化・芸術のための市民の〇〇を応援します」とかそういう表現に変えることは考えられませんか。
- ・ 他の記載と一貫性がなくなってしまうのですが。

市長)

- ・ ご意見としてはわかりますが、ご説明させていただきました趣旨としては行政の施策の目標というよりは、市民自らの行動として読めるような書きぶりを目指したい、という思いがあり、もちろん行政も取り組んでいきますし、市民も家庭も学校も、誰が主語になっても読めるような文章を目指しているわけです。
- ・ 「応援します」ということだとやはり「応援するのはだれなのか」という議論に戻ってしまうように思います。
- ・ 文章を大きく入れ替えるというのは良いアイデアと思いますが「行政がやります」という文章は避けたいな、という思いです。

斎藤委員)

- ・ そういう市長のお考えを聞くと段々この記載でも良いように思えてきました。

市長)

- ・ 皆さんのお考えもわかります、何か良いご意見があれば伺いたいと思いますが。

安藤教育長)

- ・ 思いつきですが、例えば文化財団を立ち上げ、これから小牧がいよいよ市民が中心となった文化を創造していこう、というその思いが強いからこそ「市民が」という主体性を重んじるということであれば、「市民がともにつくる文化・芸術の発展」というのはどうでしょうか。
- ・ 「展開」という言葉ですとか様にも展開していきませんが、「発展」という言葉ですとプラスのイメージ、良い方向に進んでいくことが感じられるのではないのでしょうか。
- ・ ただ「芸術の発展」という表現は一般的ではないかもしれません。

市長)

- ・ 言葉の使い方のよし悪しについてはわからない部分もありますが「発展」であれば、基本目標6の「展開」、7の「発展」、8で「継承」ですから並びとしては良いと思います。
- ・ 芸術の発展という表現がしっくりくるか、ということですね。

山田委員)

- ・ すいません、私が言いたかったのは、市民が主体ということでこういう修正をしていただきましたが、「振興」という表現がある以上、行政サイドもコーディネートや指導的なことをやっていたらいいですね、という確認でした。
- ・ ここに書いてあること全て市民だけでやっていくということではないですね、という確認が取りたかっただけで、そうであるなら別段、これを直して他の文言に置き換えないといけないということではありません。

市長)

- ・ ありがとうございます。

- 山田委員にそう言っていただけるのであれば、このままで行きたいと思いますが、あえて最後に申し上げますと、この基本目標の主語は「小牧市」である、という答えが適切なのかもしれない。
- 行政という意味ではなく、オール小牧という意味での小牧市が主語であると考えますと、その他の基本目標でも「～育みます」だとか「～推進します」だとか、あるいは「～整えます」、「～作ります」という述語になっていますが、「この主語は何だ」と聞かれたときに、もちろん行政が90%以上を締めることが多いのですが、行政だけでは全てのことはできませんので、市民や市民団体など、あらゆる協力を得ながら、市としてこういうことを進めていくのだということで、あえていうならやはり主語は「小牧市」ということで読めるのではないかな、と思います。

齋藤委員)

- 説明を聞いて十分に意図はわかりましたので、私もこのままで良いと思います。
- 皆さんいかがでしょうか。

安藤教育長)

- 先ほど発展ということも言いましたが、やはり行政サイドが小牧の文化・芸術をこれから高めていくためにやっていかないといけない部分というのは絶対にあると思います。
- もちろんその主役は市民ですので、市民が活躍できる場を作っていくことに違いはないのですが、これからやっていこうとしていること全てが市民にお任せということではなく、行政としても関わっていくのだという、その担保として「振興」という表現を残しておくことがやはり適切だと思います。
- その主役となるのは「市民」ですので、「市民がともにつくる文化・芸術」、これを「振興」するというところで理解できると思います。

市長)

- 教育長にご理解いただいて大変心強いです。
- エンピツマークや他の部分についても主語としては「小牧市が」あるいは「市民が」「行政が」「地域が」「学校が」みんながこれを主体者として受け止められるような文章にしたい、という思いで整理をさせていただきました。
- 伊藤委員はいかかでしょうか。

伊藤(敬)委員)

- 説明を聞いて納得できました。
- 他の部分でちょっとお伺いをしたいのですが、基本目標2のエンピツ部分で今回「自己肯定感」という言葉が使われていますが、この表現が硬いというか分かりにくい気がしますが、この部分、どうしてこういう表現にされたのか、その経緯を教えてくださいたいと思います。

伊木公室長)

- 確かに「自己肯定感」という表現、少し硬いような印象もあるかもしれませんが、先ほどご説明いたしました「小牧市が目指す人間像」の中の「愛」の説明の「愛はいのちを大切にし、自らを認め、自らを育ててくれた家族や隣人、郷土に感謝し～」というまさにこの部分が自己肯定感のことを言っており、また本市においては過去から自己肯定感を養うということについて力を入れて、小学校の教科の中で自己肯定感を養うビデオを作って流すなど、そういう啓発をしてきました。
- 今日、いじめなど様々な問題が出てきていますが、根本的にはやはり自分を愛する心、家族や隣人を愛する心、つまり自己肯定感の醸成が必要だということで、兼ねてより、こういうこ

とを進めていたことを踏まえ、あえてこのような表現を使わせていただきました。

- ・ ただ一般の方から少し硬いという印象を持たれるのでは、ということはよくわかりますが、過去から小牧市は自己肯定感を養うという表現を使ってきているということでもあります。

市長)

- ・ 確かに表現の硬さは否めませんが、中々短い文章でそうした諸々のことを含んだ言葉として、簡潔に説明しようとする置き換えということは難しいのではないかと思います。

伊藤(敬)委員)

- ・ 文章がおかしいとかそういうことではないので、経緯はわかりました。

山田委員)

- ・ 私も文章を直せとかそういうことではないのですが、一点。
- ・ 今と同じのところですが「他者を思いやる心を育む道德教育を推進します」とあるのですが、この道德教育というのはこの30年、31年に入ってくる科目としての「道德科」のことや人権問題やいじめの問題など、そういう施策がぶら下がってくることになると思います。
- ・ そうすると「道德教育の推進」という表現だけではちょっと狭すぎないかと思います。
- ・ 特に今言ったように今後、道德科目が週1で小中学校に入ってきますと、ここで言っているのはいわゆる道德科目を推進します、という変な言い方をすれば、文科省の旗振り役というか、それだけを言っているのか、と思われてしまう可能性もあると思います。
- ・ ただ、もともと道德教育ということをあらゆる機会にやる、というのが国の方針ですし、そのことが悪いということではないので、必ずしも修正が必要とは思っていませんが、例えば「教育」という表現を取って、「いのちを大切に作る心や他者を思いやる心を育む教育を推進します」でも言わんとすることは伝わるのかな、とも思いました。

市長)

- ・ 今のご発言の趣旨は文章の前段にあります、「国や郷土を愛する心」であるとか「自己肯定感」あるいは「いのちを大切に作る心」、「他者を思いやる心」、こういったことを養っていくということからするとむしろ「道德教育」という言葉に集約することが、前段に比べて狭くなってしまうということですね。

山田委員)

- ・ 読み手に狭く捉えられてしまうことを心配しているわけです。

市長)

- ・ 学校教育に精通している人であればあるほど「道德科目」に結び付けて、そこ限定であるような印象を抱きやすいかもしれません。

山田委員)

- ・ 乱暴な言い方をすると、国がやろうとしていることに小牧市が追従しているだけのようと思われるかもしれません。

齋藤委員)

- ・ 市長の言われるようにここは科目としての道德と捉えるか、道德が学校教育の全てに関わる心の教育だと捉えるかの違いだと思いますので、あくまでもこれは科目だけにとらわれない全ての学校教育に通じるものとして記載したものだという整理だけしておけば、それで問題ないと思っています。

市長)

- ・ どちらの意見もそのとおりだと思います。

- ・ 私としては「道徳」という言葉を取っても違和感はないかな、とも感じますし、どちらでも問題ないと思っています。
- ・ 道徳という表現を取ることは有りかなと思いますが、教育長はいかがですか。

安藤教育長)

- ・ 昔と違い、あえて道徳を教科にして、そこに評価を入れて、教科書も採択して、小学校でも中学校でも、きちんと年間 35 時間、教科としてやりましょうという位置付けになってきた今、道徳という言葉の住み分けが非常に難しくなっています。
- ・ 一般の人が読んだときに「ああ、これは道徳教育、命の大切さを授業でやるんだ」という受け止め方をする人がほとんどで、例えば朝の S T の時間や帰りの L T の時間、そういう時間も併せて日頃から教員が様々な機会を見つけてやっている本質的な道徳教育のことを言っているのだ、というところまで発展してくれる人は少ない、理解しにくい言葉になってきていると思います。
- ・ ですので、広く見るのであれば「道徳」という言葉を取ってしまっても道徳的な意味合いを含んでいると思います。

伊藤(敬)委員)

- ・ 修正については正直どちらでも構わないと思います。
- ・ ただ理解としてどちらの意味での記載なのか、という共通認識は必要なのだと思います。

伊藤(和)委員)

- ・ 更に短く「心を育みます」の方が母親目線からすると優しい表現で良いかな、と思います。
- ・ それと以前に基本目標の修正時にも「推進します」という表現があまりにも多いので、もう少し柔らかい表現になりませんか、という提案をさせていただきました。
- ・ ここを「育みます」にさせていただくと全体のバランスが取れていいのではないかな、と思いました。

市長)

- ・ 事務局としては、この言い回しについて過去の議論の経緯などから問題ありませんか。

事務局)

- ・ 問題ありません。

市長)

- ・ ではこの部分については「国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切に作る心や他者を思いやる心を育みます」ということで修正を加えさせていただきます。
- ・ ありがとうございます、その他にご意見などございますか。
- ・ 無いようですので、1点修正を加えまして、その他の部分についてはご理解をいただいたということで、確認させていただきたいと思います。
- ・ 次第の3「協議・調整事項」については、以上で終わらせていただきます。
- ・ 最後に、次第の4「その他」について説明を求めます。

伊木公室長)

- ・ 冒頭ご報告いたしましたパブリックコメントのスケジュールにつきましては、本日まで確認をいただいた1点の修正を加えまして、平成29年2月2日(木)から3月3日(金)までの1か月間で実施し、市民の皆さまのご意見を募集したいと考えております。
- ・ また、パブリックコメント後の3月下旬頃、教育大綱の公表にむけて、第5回の総合教育会

議を開催させていただき予定でございます。

市長)

- ・ これ次第にありま事項はすべて終了となります。
- ・ 以上でわたくしの議長としての進行を終わります、委員の皆様、ありがとうございました。

事務局)

- ・ それでは、これもちまして平成 28 年度第 4 回小牧市総合教育会議を終了いたします。
- ・ 山下市長、教育委員の皆様、ありがとうございました。
- ・ 傍聴いただいた皆様もありがとうございました。